

# 周防大島町の概要



周防大島町のイニシャル「S」と「O」をモチーフに、4町が合併して一つになる様子をデザイン。瀬戸内海の青、山の緑、みかん色で「文化・自然・人」の融合を表し、「発展力・創造力」を象徴している



町花 みかんの花



町木 みかんの木

山口県周防大島町

## 周防大島町の概要

平成16年10月1日、4つの町が「島を想う心はひとつ」を旨に、「周防大島町」が誕生しました。周防大島町は山口県の最東端部に位置し、豊かな自然環境に恵まれた人情あふれる町で、主な産業は農業、漁業、観光となっています。

過疎化、高齢化が進み、終戦後6万人を超えていた人口も、現在では2万人となっています。特に高齢化率は46.8パーセントと高い数値となっていますが、元気なお年よりの多い「長寿の島」、「生涯現役の島」として知られています。

青く澄みわたる瀬戸内海の美しい海に囲まれ、夏の海水浴はもちろん、季節を問わず恵まれた好漁場を求めて訪れる、太公望の船釣りや磯釣りも盛んです。山々が色づく秋にはみかん狩りや山歩きの観光客も訪れ、美しい自然の空間を求める「癒しの島」、「リフレッシュの島」としても、多くの方々に愛されています。



古くから海外に多くの移民を送り出してきた周防大島は、「移民の島」としても知られ、その縁でハワイ州カウアイ島と姉妹島縁組を結び、以来40年余り相互訪問などで交流を深めています。

昭和61年からアロハキャンペーンとして、国際交流の意識を高めるとともに、親しみのある明るい町づくりの一環として、アロハシャツの着用をすすめています。大島の夏はアロハシャツというイメージも定着してきました。

また夏場には、毎週土曜日にフラダンス(サタフラ)が各観光施設で催され、「瀬戸内のハワイ」として、島はハワイアンムードいっぱいです。

周防大島町は過疎化、高齢化など多くの課題を抱えておりますが、町総合計画基本方針の「元気にここに安心して21世紀にはばたく先進の島」をスローガンに、赤ちゃんからお年寄りまで「元気、ここにこ、安心の町」づくりを目指しています。

## 位置・地勢・気候

「周防大島町」は、山口県東南部の瀬戸内海に位置し、北は広島県、南は愛媛県の島嶼部に隣接しており淡路島、小豆島に次ぐ瀬戸内海で3番目に大きな島です。大島瀬戸を渡る大島大橋によってつながれており、周囲には5つの有人島、25の無人島があります。

全域が瀬戸内海国立公園に指定され、山頂からの瀬戸内海をはじめとする、美しい景色や自然に恵まれています。

全般的に山岳起伏の傾斜地で、島の中央部には600m級の山々が連なり、わずかな平野部を除けば急峻な山が海岸に迫る地形となっています。



気候は、四季を通じて比較的温暖で、平均気温も15度を超えています。雨が少なく、冬でも晴天の日が多く降雪・積雪もほとんどないため、特に高齢者にとって暮らしやすい地域となっています。

## 歴史

周防大島には、出土した土器などから、縄文時代中期にはすでに人が住んでいたことがわかります。「古事記」や「万葉集」にも周防大島は登場しています。平安時代の資料によると、周防大島には屋代、美敷、務理の三郷がありました。

江戸時代周防大島の人々の食料不足を補ったのは、享保年間に栽培が始まった「さつまいも」で、江戸後期にかけて周防大島の人口は約4倍に増加しました。このため、明治になり多くの海外移民を輩出することになりました。

周防大島は明治以来、村町の統廃合を繰り返してきましたが、平成16年10月1日に久賀町、大島町、東和町、橘町の4つの町が合併し、「周防大島町」が誕生しました。

## 産業

### ・農業

大島郡はみかんの島として知られており、農業生産のほとんどはみかんで占められています。近年、価格の低迷や農業従事者の高齢化、後継者不足などにより生産量が減少するなど、多くの課題をかかえています。この



ため、「よみがえらせよう大島みかん」をスローガンに、「大島みかん産地再生プラン・21」を実践するなど、農業基盤整備と経営基盤の強化を図りながら高品質（ゆめほっぺ等）低コスト生産に取り組んだり、新規就農の受け入れ体制づくりを行って

います。また、他作物の導入による複合経営の推進や農産物の加工、観光農業や新しい販売体制づくりなど、新たな事業展開を図っています。さらに農漁業のもつ多面的機能を活用したグリーンツーリズムなど、体験型交流事業の推進、体験型修学旅行の誘致に努めています。

#### ・水産業

水産業は、瀬戸内海を漁場とする沿岸漁業が中心で、農業と同様高齢化、後継者不足、漁獲量の低迷が課題となっています。高級魚のタイやイリコとして加工されるイワシ漁などが盛んです。獲る漁業からつくり育てる漁業の転換を目指し、種苗放流や魚場の整備、水産加工業の育成、観光漁業の推進を図っています。また、ブルーツーリズムの推進による都市住民との交流を促進しています。



#### ・商工業

過疎化や生活圏の拡大により、購買力の低下が大きな問題となっています。観光客の増大による主要産品を活用した、特産品の開発などが求められています。



（みかんの缶詰工場）

一方みかんや海産物を中心とした加工産業は活発でみかん、竹の子などの缶詰加工、カキなどの加工も盛んです。また島周辺で採れるひじき、わかめ、テングサやイリコなどの海産物の加工品も、町の主要な特産品となっています。

## ・観光

四方を海で囲まれた周防大島の観光は海が主体。風光明媚な島の随所に海水浴場、温泉、宿泊施設などが整備され、多くの観光客が訪れています。



また、戦時中大島沖合いで爆沈した戦艦陸奥の記念館、ハワイ移民資料館、民俗学者・宮本常一先生の資料を集め文化交流センター、歴史民俗資料館など多くの文化施設も整備されています。演歌の作詞家・星野哲郎先生の記念館も平成19年にオープンしました。

町では体験型交流の推進により、年間観光客100万人を目指しています。

## 健康・福祉

高齢化率の特に高い周防大島町では、健康福祉対策は大きな課題です。「わが町、周防大島町で輝いて生きよう・100歳に挑戦」をスローガンに、町民が住みなれた地域で生きがいのある生活を送り、生涯を健やかで生き生きと過ごすことができ、支えながら自立して安心して暮らせる地域社会を目指しています。特にデイサービスセンター、介護支援センター、子育て支援センターなどに力を入れています。重点施策は、健康づくり・保健サービスの充実、障害者・児童・高齢者の保健福祉の推進です。

## 交通

昭和51年開通の大島大橋（平成8年に無料化）から伸びる基幹道路の国道437号線は、東端部の一部を残してほぼ拡張整備が終わっています。公共交通は、民間事業所を主体に一部町営バスを運行しています。周防大島町の最東端の伊保田港には、松山へのフェリーが就航し、昭和58年大橋が開通した沖家室島を除く4つの有人島には、町営の渡船を運航しています。

（道の駅）



## 生活環境・防災

上水道については平成12年に広域水道が整備され、簡易水道普及率はほ

ば90%となっています。下水道（農業集落排水・漁業集落排水含む）は、7地区で全部又は一部供用開始が行われ、処理区域人口は全人口の約36%となっており、現在他に2地区で事業の推進を行っています

3カ年計画で建設していた、処理能力1日8tのリサイクルセンターと、埋立容量16,000m<sup>3</sup>の最終処分場も、平成20年度より稼動しています。

周防大島町は、東南海・南海地震防災対策推進地域に、山口県で唯一指定されています。このため、「安心のある町づくり」の一環として、防災情報をいち早く町民に知らせるための「防災行政無線」が、平成21年9月に供用開始され、また、県による「山口大島防災センター」も、久賀に整備されています。

## 教育・文化

過疎化、少子化による児童生徒の減少が著しく、学校の統廃合等教育環境の整備が大きな課題となっており、平成21年には中学校の統合（9校5校）を行いました。社会教育については、4地区に整備されている総合センター、文化センターを核として住民の主体的な学習活動の支援を行い、また利便性の高い図書館ネットワークなど社会教育施設の充実をはかっています。

さらに、地域で育まれた貴重な文化を後世に継承していくため、民俗資料館、ハワイ移民資料館、文化交流センターなど、文化財や歴史的遺産の保存、活用を図っています。

## 交流

東京、関西、広島地域に、旧町からの町出身者組織（町人会）が10団体あり、積極的に交流を続けています。また、昭和38年にはハワイ州カウアイ島と姉妹島縁組を行い、国際交流も活発に行っています。



（カウアイ市長表敬訪問 H19）（周防大島ゆかりのカウアイ市民と交流会）